



## 10.31 狭山中央闘争

### 五万人の熱気でむき出し

「狭山差別裁判糾弾」 石川さんは無実だ！ 東京高裁は再審をおこなえ！」をスローガンに部落解放同盟ならびに、部落解放中央共闘、同地方共闘等三者の主催による「一〇・三一寺尾差別判決六カ年糾弾・狭山再審要求中央総決起集会」は東京・明治公園に全国から部落解放同盟、労働組合、支持共闘組織など五万人を結集し、圧倒的高揚のうちに勝ちとられた。

六年前の十月三十一日、あの憎むべき東京高裁寺尾裁判長は、数々の証拠・証言によって、石川一雄氏が明々白々無実であることが明らかにされたにもかかわらず、ただただ部落民だからという差別と偏見、あわせてますます広がっていく狭山闘争を圧殺・解体せんがための政治的反動的意図をむき出しに、無実の石川一雄氏に「無期懲役」の獄死攻撃を加えてきたのだ。

そして、今日、再審貫徹・石川氏奪還のための闘いは、東京高裁での「事実調べ」を何としても実現させ、年内却下策動を粉碎し、「異議審判」闘争の勝利を切りひらきうるかどうかの重要局面にさしかかっている。

「異議審判闘争に勝利し、一日も早く石川さんを取りもどそう」

動労千葉一八三名の隊列が会場に着後まもなく開始された部落解放同盟独自の前段集会是松井委員長の挨拶、全国各ブロック代表の報告、ならびに固い共闘の意を表して三里塚芝山連合空港反対同盟北原事務局長の連帯のあいさつが行われた。会場は立錐の余地なく埋め尽され、石川さんとりもどせの熱気とかん声に渦まいた。引き続き中央集会是十四時、主催三団体を代表する三名の議長団により開会され、狭山中央共闘丸山議長の挨拶、部落解放同盟西岡中執の基調報告を受けたのち、狭山再審弁護団・中山弁護士より経過報告をうけた。集会には社会党、総評、韓民統はじめ各界共闘団体・文化人等からの連帯の挨拶がよせられ、老齡の御両親に代わって石川さんのお姉さん(静枝さん)からの「一日も早く両親としてほしい」との訴えをうけ、続いて獄中十七年の壁をこえて届けられた石川一雄さんのメッセージが代読されると会場の五万人の人々は固い決意をこめ

て万雷の拍手でこれにこたえた。決意表明、集会宣言、ガンバローにつづいて、十五時四〇分、全員がコースにわかれてデモに出発した。

「小谷問題」もちこみを策し、破産した動労「本部」反動分子

一方、第二の「水本」ともいふべきデマ運動「小谷」問題をもちこむためにのみ必死の大動員を画策していた動労「本部」革マル反動分子は、解放同盟はじめ、多くの仲間からその邪悪にしてセクト的な介入・破壊の意図を断罪・拒否されるや、一変して関東動員をかけたが二百なにかしかの形ばかりのアルバイト動員で、しかも集会在終るやあちこちの弾効の声に送られてそそくさと逃げるが如く退場するという政治利用主義的な破産した姿をさらけ出したのである。

動労千葉一八三名の隊列で闘争貫徹



動労千葉は、10/10東京(105名)↓10/19東京(207名)↓10/21東京・千葉(374名)↓10/27局前(417名)に引き続き「十月総決起」の熱気をもって、全支部より一八三名の動員をもって、解放同盟千葉県連と共に最後まで闘いぬいた。

闘争終了後、動労千葉の参加者は、布施組織部長の司会のもと錦糸町にて独自の解散集会をもち、部落解放同盟千葉県連鎌田事務局長の挨拶、吉岡教宣部長の総括提起、水野財政部長のガンバローをもって成功裡のうちにこの日の闘いを終了した。

全組合員の総決起の上にかちとられた今秋季闘争の偉大な高揚をひきつぎうち固め、確信も固く八一年三月勝利へむけて更に前進していこう。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！